

刺し網漁による海鳥混獲の現状把握 ～ウミガラスとエトピリカの保全を目指して～

鈴木康子（バードライフ・インターナショナル東京） 佐藤信彦（北海道大学（当時））

刺し網漁による海鳥混獲

- ・潜水性の海鳥が偶発的に網にかかりやすい
- ・世界で毎年推定40万羽が刺し網漁で混獲されているが、効果的で実用的な対策が確立されていない
- ・日本では刺し網漁による混獲の報告義務がなく、データが不足

→海鳥混獲削減に向けて、現状把握の必要性

- ・調査：いつ、どこで、どの種類の混獲が発生？
- ・場所：北海道北西部
- ・調査協働者：刺し網漁業者4名

2021・2022年度の調査結果

- ・合計244操業分のデータを蓄積
- ・主に8種の魚種が漁獲対象
- ・対象魚種によって網の仕様や漁場が異なる
- ・報告された海鳥混獲ヒメウ3羽
- ・混獲が冬と春に発生（夏の操業は少なかった）
- ・混獲の水深は50m未満



ヒメウ（環境省レッドリスト絶滅危惧IB類）©北海道海鳥センター

一般市民向け教育普及

- ・葛西臨海水族園と協働の取り組み
- ・来園者向け教育普及：海鳥給餌時のガイドやガイドツアー時に以下の取り組みを紹介
 - ・北海道におけるデータ収集
 - ・同水族園で行っている混獲対策開発実験
- ・葛西臨海水族園YouTubeチャンネルで動画配信
 - ・データ収集で協働している漁業者らのインタビューなどを紹介
 - ・漁業者のコメント：海鳥からの恩恵を認識しているので漁業と海鳥の共存を願いつつ、混獲削減に向けて漁業者・研究者らの連携の重要性を感じている

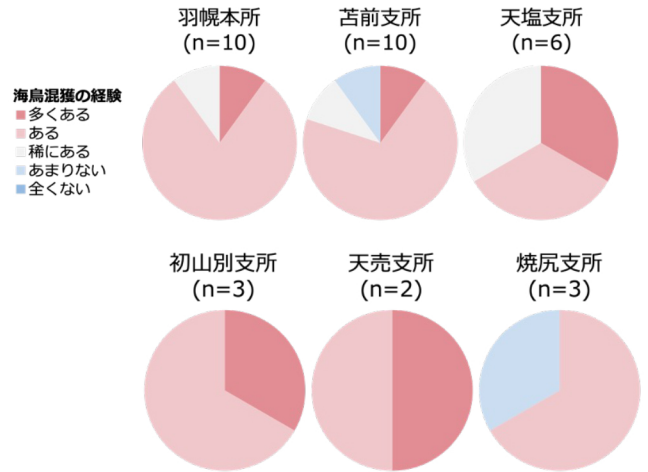
動画の視聴はこちらから→



協働している漁業者のインタビュー

漁業者の意識調査

- ・手法：アンケート調査
- ・対象：北るもい漁協本所・5支所所属刺し網漁業者
- ・回答：85名のうち34名



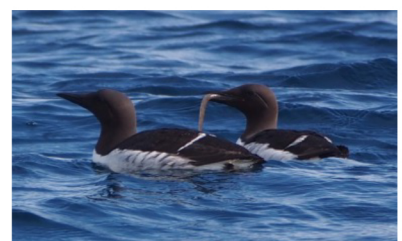
- ・全ての操業海域で混獲の経験があった
- ・「混獲が多くある」は40歳以上の漁業者のみが選択→近年と比較し、過去に混獲が多かったか？
- ・80%が「海鳥混獲が操業に悪影響を与えている」と回答→海鳥混獲の削減は漁業にも有益

2022年度成果のまとめ

- ・漁業者と協働でデータ収集の継続
 - 混獲の環境・操業要因的に向けたデータをさらに蓄積
- ・漁業者の意識調査
 - 混獲の有無や混獲に対する考えなど、実情把握に役立つ情報を収集
- ・一般向け教育普及
 - 混獲削減に向けた活動紹介のプログラムを構築

総括

- ・複数の柱によるアプローチ
 - ・刺し網漁による海鳥混獲の実情についての知見の深まり
 - ・教育プログラムを通じた一般市民による気付きと理解の広まり



北海道北西部に生息するウミガラス